

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 薬師温泉
(ユニット名)	蔵王館
所在地 (県・市町村名)	山形県 川西町
記入者名 (管理者)	坂野 絵美
記入日	平成 20 年 7 月 21 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解し、地域とのつながりを継続できるよう支援しながら、当ホームの理念でもある、尊厳を保ちその人らしい生活を送っていただけるよう理念の再確認をしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や日々の支援において、当ホームの理念である、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的に行っている運営推進会議で、入居者の家族等・地域の方・町役場の職員に出席いただき、理解していただけるよう繰り返し説明している。また、地域からのボランティアの方にも見学をはじめ、機会あるごとに話し、理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常生活において、散歩や外出に行った際、ご近所の方に声をかけ話をしたり、畑などで収穫した野菜等をいただいたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同地区の皆さんと共に、花壇作りに参加したり、幼稚園児との交流や慰問、婦人会のボランティアの受け入れ、地区の獅子舞の慰問があり利用者全員で見学し交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	デイサービスに通って来られる地域の高齢者と事業所内の畑を通して交流の場を設けている。その他、できることはないか話しあっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、改善事項においては話し合い、実行・改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者の近況報告や事故報告、開催月ごとテーマを決めて話し合い、ご家族や地域の方々より意見を頂き反映に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問や要望を町の担当者と話す機会を作り、サービスの質の向上に努めている。町からの要望でもあった、生活保護の指定を取り、現在対象者の方入居している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があり、職員も制度の理解に努めている。利用者の実情に応じて支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務や会議の場において、虐待防止は充分理解し、虐待のない生活支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所の取り組み、退所時における事業所としての支援できる範囲について説明すると共に、利用者やご家族等の不安に耳を傾け、納得のいく説明をするよう心がけている。契約解除に至る際は、利用者・ご家族と相談を重ね対処している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中での表情や会話・行動等の様子から、思いを察して支援できるよう利用者本位の運営に努めている。また、利用者の不安や意見を引き出し、その都度話し合いを設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や、かかりつけ医への受診後にご本人さんの様子を報告。また、日常生活の様子など、写真入のホーム便りにて報告している。金銭管理においては、毎月領収書を添付して収支報告書をご家族へ送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議時、気軽に話せる雰囲気作りに努め、ご意見を頂き運営に反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者と管理者は、職員と日常的にコミュニケーションをとり、一人ひとりの思いや要望・意見を聞き運営に反映している。また、年一回行われる独自の自己評価で、会社への要望等を運営者に直接話す機会が設けられており、相互に意見交換ができる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況変化に伴い、職員の増員を行ったり、勤務調整を図ったりと柔軟に対応している。また、管理者不在時や緊急時には、連絡が取れ、対応できる体制にしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員による支援が受けられるよう、又、利用者やご家族との信頼関係を継続する為、今年の職員移動は行われなかった。職員の移動がある場合は、あらかじめ告知を行い、数日前より顔合わせをし利用者との関係作りを早々に行う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会や講習会の案内を提供し、受けたい研修・講習があれば参加する機会を設け、復命書にまとめ回覧している。又、会議時に伝達研修を行い、研修を受ける機会を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームと定期的に交流会を実施している。又、グループホーム置賜ブロック会の参加、山形県グループホーム協会主催の交換実習に参加する。</p>	<p>○</p> <p>交流会、ブロック会等を通し、他グループホームとの交流を今後も継続し、お互いのサービスの質の向上に努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会を作っており、様々な集まりで語り合う機会を持ち、交流を深める環境作りをしている。また、その場に限らず、お互いになんでも言い合える環境作りにも努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者独自の自己評価表を記入し、職員全員と一人ずつ面談をすることで、それぞれの職員がもつ要望や疑問を聞く機会を作り把握に努めている。資格取得に向けての勉強会・講習会への参加支援をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接を行い、ご本人の希望や意見を伺い、従来の生活がホームにおいても継続できるよう環境を整えている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至るまでの間、ご家族が抱えている不安・悩みに傾聴し、いつでも話を聞ける環境を作り、安心して利用して頂けるよう対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の意向状況を把握する。様々なサービスの提案・ケアマネージャーとの連携、早急に対応が必要な場合は、柔軟な対処・他事業所の紹介をしている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活での知恵を教えていただいたり、料理の仕方・畑の作り方を学び共に行っている。又、戦時中の話や、仕事・趣味・家族・住んでいた地域の話等、語らう場が常に設けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日々の生活の様子を見てもらい、要望を聞かせていただいている。利用者のご家族がゆっくり話せる環境作りや、外出行事・催し物のお知らせを行い、ご家族に参加していただきながら共に楽しんでいる。看取り介護の実施をしている。	○	重度化指針を作っており、看取り介護に取り組んでいる。最後の時間を、ご家族と共に過ごせる環境を作りをしており、今後も継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームにおいての行事や、ご本人の様子を交えたホーム便りを月に1度発行し、ご家族の方に送付している。また、面会時には食事の支度・食事介助をしていただいている。ご家族と共に過ごせる行事を企画・実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生や友人、親戚の方々がゆっくり面会できる場の提供に努めている。以前より、通い慣れ親しんだ美容院や床屋へ足を運んだり、ご家族に散髪をしていただいたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が良好に保てるよう、テーブルの席を配慮したり、食事の支度やお茶のみの際には、お互いに手分けしながらできるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設・病院・自宅へ移った後も、利用者と共に面会に行ったり、ホームに遊びに来たりと、互いに行き来している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	従来 of 生活に近づけるよう、ご本人やご家族から話を聞き、意向の把握に努めている。意思疎通困難な方もいる為、ご本人の動きや仕草を見て本人本位の検討をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族より今までの生活の様子を伺ったり、日常生活の会話を通し、これまで暮らしてきた様々な出来事の把握に努めている。又、個人のプライバシーには充分配慮している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを崩さず、行動・行為・表情を伺いできる事を確認し、有する力を継続して活用し生活できるよう、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意向や、ご家族の思いを聞き反映できるよう、職員全員で話し合い、利用者の立場に立ったうえでの意見交換を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化が生じた場合、柔軟に対応できるよう、利用者・ご家族に話し、検討・対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のほかにも、申し送りノートを活用し、日々の状態変化・気づきを記載し、職員全員で情報の共有・実践・反映に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	利用者が地域の方々と調査していた物を、本にしたり、又外出時には、コミュニティセンターを利用させて頂いたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	ADLの変化により、福祉用具の必要が出た場合やご家族の要望があった場合、相談に乗り対応している。また、個人で出かける際にも、福祉車両のサービス利用の支援を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員の方に、運営推進会議に参加していただき、情報交換を行ったり、助言をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診、心身の状態変化がある場合は、迅速に医療が受けられるよう支援している。急変時には、かかりつけ医に連絡・相談をし、隣接している総合病院へ（協力病院）への紹介・搬送を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議やケアに入る前に、日々の関わり合い方を確認し、利用者への尊厳・プライバシーを損ねない対応に心がけている。又、他のご家族の方や来訪者に対してプライバシーの保護を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人に合わせた声かけをし、介護者側の意見を押し付けることなく自分の意思で決定できるよう、働きかけている。意思表示が困難な方でも、表情・仕草などの変化を察して支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を受け入れ、天気の良い日は、散歩・買い物・ドライブ・自宅へ行ったりしている。日常生活において一人ひとりのペースを崩すことなく支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理髪店や、美容室へ行きパーマや毛染めをしたり、普段の服や、外出時の着替え・身だしなみは、ご本人が支度できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を使用したメニューを取り入れたたり、一人ひとりの嗜好を配慮した食事の提供をしている。食事の支度・片付けは、利用者と職員が共に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶菓子を共に作り、お茶会をしたり一人ひとりの好みに合った物をその都度提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを確認し、おむつ外しを試みながら仕草・行動をみて、各々の排泄介助をしている。又、羞恥心に充分配慮しながら、さりげない声がけをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉入浴を毎日実施している。温泉ということで、利用者の方々は喜んでおられる。入浴の希望を聞きながら、仲がいい方同士で入浴したり、各々のペースに合わせて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、活動していた時間や、状況に合わせて目配り・気配りをしながらご本人のペースを大事にし、ご本人がくつろぎたい場所で休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々のできる事、やりたい事を引き出し、食事作り・食卓の支度・配膳・下膳・洗濯・掃除等、裁縫や書道等の趣味活動、花を植えたり畑仕事など、お互いに聞いたり教えあったりして取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができる方には、していただいている。外出時や受診の際の支払い等を、各々の能力に合わせてしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を伺いながら、気候に合わせて散歩や買い物、自宅へ荷物を取りに行ったり、ドライブに出かけ気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族・ご本人と相談をし、職員の勤務調整やご家族の協力を得て行きたい所へ外出していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の要望がある際、ご家族や親戚・友人にいつでもかけられるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際には、自室や談話室を利用いただき、ゆっくり過ごせるよう配慮している。又、訪問時間は制限しておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間に来ていただけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や申し送りで、身体拘束につながらないように注意を促し、又拘束をしないよう職員一人ひとりが自覚・認識をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけずに見守りを徹底している。又、利用者が玄関に足を運んだ際には、行動を抑制せずに職員と共に外へ出てほしい事をしていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、利用者と共に過ごしながらか見守りをし、自室で休んでいる際には、プライバシーを害さない程度に足を運んで様子を伺っている。夜間は、時間を決め訪室し安全の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要するものを、一律になくさず各々使用する際には、職員が付き添って行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの行動や行動範囲を把握し、各々の状態から予測される危険を検討し、安全の確保をしている。事故報告書より、今後の事故防止策について話し合い、日々のケアに反映させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が講習に参加し、救急救命法の訓練を行ったり、看護師より状態変化時の観察の注意点や、対処法の指導も受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報訓練・防災訓練を行い、各々のシチュエーションに合わせてどんな行動が必要か、確認し合っている。又、地域の消防の方より火災や災害時、協力いただけるよう話を進めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各々のADLの状況や、日常生活を送っている様子を伺い、考えられるリスクをご家族に説明し、対策を講じ対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の心身の状態を把握し、食欲や顔色の様子の変化が見られた場合、バイタルチェックをし看護師へ報告、指示を仰いでいる。状況によっては、かかりつけ医への受診を行い早期治療に勤めている。心身の状態の変化や対応は、全て記録に残し継続した対処をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬のないようについては、確認している。主治医より内服薬の変更があった場合は、様子を伺いその旨を報告している。処方録は、保存している。服薬の際には、各々の能力にあった支援をし、服用の確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動や食事の面で、食物繊維や乳製品等を行い、自然排便ができるよう、取り組んでいる。自然排便ができない方は、主治医と相談して、下剤の服用をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、声かけにより歯磨き(見守り・介助)を行っている。義歯使用者の方も、毎食後義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事量、味付けをしている。食事委員会を設け、互いの部署の献立の情報交換や調理法、注意すべきことなど、楽しんで食事をしていただけるよう取り組んでいる。水分・食事摂取量は、記録に残しており利用者の状況に合わせて、臨機応変に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し、予防・対策に努めている。利用者・職員共に、外出時・食膳等、日頃の手洗い・うがいを徹底している。ホーム内を塩素系の物で消毒を行い、また面会時に来られた方にも、消毒の協力をいただいている。インフルエンザ流行時期前に、ご家族・ご本人の同意を得て予防接種を受けている。職員も同様。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は、使用の度にアルコール消毒してから使用している。毎晩、水周り用品の消毒の実施。冷蔵庫の食材に関しては、質の状態を確認し、処分をしたりと安全管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に、出入りしていただけるよう、玄関先には利用者と共に花を植えたり、玄関内の飾りだんには季節の花を生けたりと、一般家庭と同じような玄関にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の花々や書道、趣味で作った飾りを利用者とともに飾っている。食事の支度の際には、何を料理しているのか常に、見たり・聞いたりできる環境になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室は、畳を敷き、畳のベンチを設置し、様々なスタイルでくつろげるスペースを確保している。畳の間には、利用者同士で座って洗濯物をたたんだり、お茶のみをしたり、横になって休んだり、どの場所でも自由に過ごしていただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身が以前から使用していた家具や仏前、馴染みのある品物、思い出を綴ったアルバムや、趣味でしようする道具など、ご家族の協力のもと持ち寄っていただき活用している。利用者が使いやすいように、ご本人と相談をしながら、自室の家具やベッドの位置を決めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各自室に温度計・湿度計を設置し、季節に合わせて温度・湿度管理をしている。自室も締め切りにはせず、ご本人の了解を得て喚起をしている。冬期間は、乾燥防止の為に加湿器を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、段差なくバリアフリーで対応している。ベッドの手すりの位置など、各々の状態に合わせて配置し、自分でできる工夫をしている。利用者の年齢が重なれば、身体状況の変化もみられるため、様々な場所で何が必要か、職員間で検討し対処している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人の状態・状況に合わせて環境の整備に努めている。複数の事をまとめてすると、混乱・失敗の原因になる為、ひとつひとつ行為や動作をしていただいている。失敗が続いた場合は、職員で話し合い、次につながるよう試みている。また、自尊心を傷つけないよう、さりげない声がけを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご家族の協力のもと、畑の土作りから行い、利用者の希望を聞き、野菜を作っている。利用者と共に畑に出て、草むしり・野菜の収穫をし食卓に並べたり、花壇の花の手入れ、ホームの外周りを散歩している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

要介護者のご家族が付き添いとして、共に生活していただきご本人の精神的なサポートになっていただいている。